

経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 美瑛町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法適用	電気事業	非設置	98.3
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和7年3月31日 しろがねダム管理 田水力発電	-	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
丸紅新電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	R02	R03	R04	R05	R06
水力発電	-	-	-	2,236	2,722
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	2,236	2,722

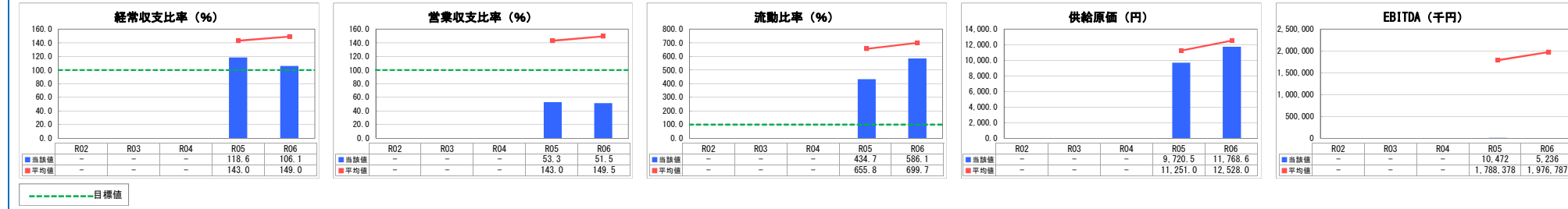
年間電灯電力料収入（千円）	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
	35,063	-	35,063

利益剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
基金への積立の有無…	有（200円預金利子）
一般会計への繰出しの有無…	有（5,433千円） 目的・・・土地改良施設維持管理費
その他の有無…	無

分析欄

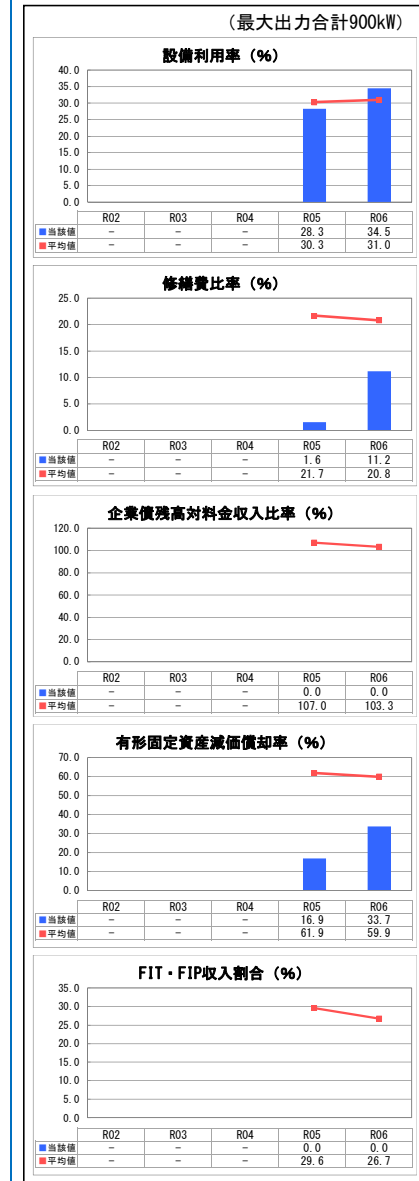
1. 経営の状況について
経営収支比率は、100%以上を超えており、流動化比率も良好であることから、安定的な経営が維持されている。

1. 経営の状況



2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

○設備利用率は、平均上回った、今後も効率的な施設利用を図っていく。
○修繕比率は、年度ごとに必要な修繕規模に差があるため、各年度の数値にバラつきがあるが、平均値を下回る水準で推移している。今後は施設の老朽化に伴う修繕等が見込まれる。
○有形固定資産減価償却率は、平均値を下回っている。老朽化により施設の更新の必要があるが、平成15年の運用開始から22年が経過しており、法定耐用年数(22年)を既に超過している。また、メーカーによる保守期間も終了しており、主要機器に係る部品供給が困難となっていることから、突発的な故障が発生した場合には、現行設備による復旧が不可能となるリスクが高まっている

全体総括

本町の電気事業は、従来からの経営努力に加えて、売電単価は、一般競争入札等により収益性を高め、健全な経営が維持されている。

一方で、設備の老朽化が進行しており、現行設備と同規模で更新するには多額の費用を要する。現状の売電収入等を踏まえると、更新投資を行う事業を継続することは、公営企業として採算性の面から合理的とは言い難い。

このため、設備更新は行わず、必要最小限の維持管理により運転を可能な範囲で継続し、重大な故障等により復旧が困難となった場合には、事業廃止を含めて検討する。

※ 令和2年度から令和6年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、有形固定資産減価償却率、FIT・FIP収入割合については、令和6年度の団体数を基に平均値を算出しています。